

## 本調査研究における論点

### 1. 本調査研究の実施項目

本調査研究は文化部活動に関する課題・現状（2.）を踏まえて、以下の項目を実施。

- 有識者会議（本検討会議が該当。議題案は2. 参照）
- ヒアリング調査（4. において論点整理。また、資料5に具体的な調査設計掲載）
- アンケート調査（5. において論点整理。また、第3回会議で具体的な調査設計案提示予定）

### 2. 文化部活動に関する課題・現状について

課題・現状及びその論点は以下のとおり（「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」において提示された論点含む）。

表 1 文化部活動に関する課題、現状及び論点

課題、現状	論点
長時間の活動、週休日の活動による部活動への過度の傾注	いわゆる裏部活の現状
	効果的・効率的な指導方法
教員の部活動指導負担（教員の働き方改革）	一定規模の地域単位で部活動運営を支える体制構築
	学校外部との連携パターンの在り方
学校施設・設備の適切な利活用、学校安全	学校外部との連携方策
	学校安全に係る対応方策、責任体制
活動費用	学校、家庭、運営主体の経費負担についての考え方の整理
	追加経費発生が引き起こす可能性のある格差を是正する方策
	運営主体の活動経費確保の方策
指導者確保（指導者の水準の確保含む）	学校外部での指導者確保及び指導者育成
部活動の意義の確保	教育課程との連携の在り方（学校教育としての部活動の在り方等）
	地域移行後の文化部活動の質の水准确保
多様な生徒のニーズへの応答	生徒の自発的な活動へ対応するための活動スキームの在り方
	小規模な部活動の水准确保

### 3. 本検討会議における検討課題（予定）

中間報告（7月目途）、最終報告（11月目途）において文化部活動の地域移行モデルを取りまとめることを目指す。

表 2 検討会議の各回議題案

回	月	時期	議題	準備する資料等
1	5	下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状・課題認識の共有</li> <li>調査対象への助言</li> <li>委員による事例紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本調査研究の方向性説明資料</li> <li>ヒアリングリスト案の提示</li> </ul>
2	6	中～下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルの方向性</li> <li>ヒアリング対象確定（今後も対象の修正・追加等には柔軟に対応）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル方向性資料</li> <li>ヒアリングリスト案</li> </ul>
3	7	月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間まとめ（モデル案及び事例作成のフレームワーク確定）</li> <li>アンケート調査への助言<sup>※1</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査進捗説明資料</li> <li>事例調査報告資料</li> <li>モデル案報告</li> <li>設計・項目案</li> </ul>
4	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>文化部活動の視察及び意見交換</li> </ul>	—
5	9	月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例調査結果報告</li> <li>アンケート報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査進捗説明資料</li> <li>事例調査報告資料</li> <li>アンケート報告</li> </ul>
6	10	月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例資料案の検討</li> <li>モデル案のブラッシュアップ</li> <li>指導の手引きについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例資料案</li> <li>モデル案</li> <li>指導の手引きについて</li> </ul>
7	11	月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告書骨子の議論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告書骨子案</li> </ul>
8	11	下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終報告（報告書案）の承認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例調査報告資料</li> <li>報告書案</li> </ul>

※1：第3回後にメール等での意見集約の上、確定し、速やかに実施する。

### 4. 事例収集、ヒアリング調査における論点

以下の「重視すべき観点」及び「考慮すべき観点」のバランスを踏まえて調査項目及び対象を選定することとする（調査対象の確定は第2回。候補案は資料5-2参照）。

#### ア) 重視すべき観点

- 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドラインにおける5項目（※）に対応する工夫・取組を含んだ事例収集やモデル構築
  - ※「適切な運営のための体制整備」「合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組」「適切な休養日等の設定」「生徒のニーズを踏まえた環境の整備」「学校単位で参加する大会等の見直し」
- 都市部、地方部、町村・へき地のうち、学校の教育資源（教員数含む）が比較的乏しく、学校外の社会資本（文化施設、文化団体等含む）が豊富ではないへき地におけるモデル構築
  - 例：ICTを活用した指導モデル、他の地域の文化団体を定期的に招聘するモデル等
- 活動経費の格差是正の工夫や取組を重点的に収集（運動部活動における先進事例調査も含む）

## イ) 考慮すべき観点

- 地域別（都市部、地方部、町村・へき地）
- 学校外の運営主体別
  - ✓ 学校の文化部活動の環境を利用し、保護者や地域が運営主体となっている事例
  - ✓ 文化団体が運営主体となり、公共の文化施設などを活用している事例
  - ✓ 総合型地域スポーツクラブ、カルチャーセンター等が運営主体となっている事例
  - ✓ 芸術系大学、教員養成大学が運営主体となっている事例
  - ✓ 民間事業者に全部又は一部を委託している事例 等
- 部活動の種類別
  - ✓ 活動の強度が高く、全国的コンクール等への参加・競争によって練習が過熱しやすい部活動（例：吹奏楽、合唱）
  - ✓ 多くの学校で実施されており、全国的なコンクール等もあるが、練習が生徒の自主性に任せられる等の理由からそれほど教員及び生徒側への負担が高くない場合が多い部活動（例：美術、パソコン）
  - ✓ その部活動を設定している学校が比較的少なく、指導に高度な能力・スキルが必要となるが、指導者が少ない、部活動所属生徒数が少ない等の理由から、活動の水準を確保するのが難しい部活動（例：伝統芸能）

## 5. アンケート調査における論点

### ア) 調査設計の観点

アンケートは教育委員会及び自治体の芸術文化振興担当部署を対象に実施する。アンケート調査項目設定の観点は以下のとおり（具体的なアンケート項目案は第3回検討会議に提示予定）。なお、本調査研究で提示するモデルが全国展開可能なものとなっているかを検証するための基礎的なデータを取得できるよう調査設計を行う。

- 2. 「現状・課題認識の共有」で挙げた現状・課題の状況
- 教育委員会・自治体による学校支援の状況（教員・生徒の部活動負担軽減方策、部活動支援の補助事業等）
- 地域の芸術文化関連の取組状況（好事例の把握。特にその取組を可能としている予算や人員体制等についても把握）
- 文化部活動の地域移行の取組状況、今後の実施意向、現時点で課題と考えている事項
- 文化部活動に係る国への要望事項

### イ) 分析方針

- 各項目のうち、自治体規模、学校数によるクロス集計を実施
- 教育委員会調査と自治体調査のマッチングによる集計分析により、地域の文化資源と学校の取組の関係性を分析
- 地域属性や自治体規模による課題の分類（現状認識の違いが文化部活動の地域移行にどのように影響するかについて分析）

※既存の学校調査（部活動調査、学校の働き方改革状況調査等）とのデータマッチングについても、データ所掌部局よりデータ提供いただける場合は分析実施

（以上）